

中原台の風

令和6年 第9号(通算361号)

—佐西学校だより—

令和6年12月24日発行

〔発行責任者〕

長崎県立佐世保西高等学校長 濱野 正義

言 霊 (Kotodama:ことばの力)

校長 濱野 正義

最近聴いた講演会の話の中で「一流選手に共通すること」という話になり、①素直であること、②プラス思考であること、③勉強(研究)熱心なこと、このようによく言われている項目が次々とスクリーンに映し出された。

そして、4つ目に映し出されたのが、『④言葉を持っていること』であった。

野球の大谷翔平、スケートの羽生結弦、体操の内村航平、将棋の藤井聡太など、一流と言われる選手は、練習や試合で上手くいかなかった時、どこがまずかったのか、今後どうすべきなのかを、試合直後のインタビューで的確な言葉で説明できるというのである。たしかに、体育系、芸術系へと進学していった教え子たちの多くは、語彙力が豊富であった。また、ある運動部の顧問の先生が、『毎日、練習後に反省日誌を書かせているのは、言葉の上達が技術の上達に比例するからです』と言っていたのも思い出した。

そこで、『ルポ 誰が国語力を殺すのか(石井光太著)』を本棚から取り出して、読み直してみた。

男子A「あのゲーム、くそヤバかったっしょ」

男子B「ああ、エグかった」

男子C「つーか、おまえ台パンしすぎ」 ※台パン＝ゲーム機の台を興奮して叩くこと

男子A「あれまじヤバかったよね。店員ガン見だから」

男子B「くそウザ」

男子C「つーか、おまえがウザ」

男子B「は、死ね」

男子C「おまえが死ね」

今の学生の間での会話としてはごく普通なのかもしれない。「ヤバい」「エグい」「ウザい」などの短い言葉で表現する。しかし、最後の男子Bと男子Cのやりとりのように、深く考えずに発した言葉で、誤解が生じてトラブルに発展することも多い。

「言葉には、魂が宿る」とか「**どういう言葉を使うかによって人生が変わる**」とも言われる。何度も何度も発する言葉は脳内に定着し、それをもとに「思考回路」が作られる。「気がつけばいつも悪口ばかり」「ついマイナスな事ばかり言ってしまう」いつも使う言葉が否定的な言葉なら、きっと物事の捉え方も、見える景色もネガティブなものになっているのかもしれない。もちろん、誰にでもイライラしたり、不安になったり、落ちこむ時はある。しかし、それは自分がそのような言葉で考えているからなのだ。「ダメだ」「無理だ」「できない」いつも自分に対して否定的な言葉を投げかけていると、本当にできなくなる。「大丈夫」「できる」「上手くいく」自信を持って言葉に出してみよう。感じ方や見え方がプラスに変わっていくはず。

さらに、別の角度から話をすれば、他人とのコミュニケーションにおいて、自分が負の感情をもって発した言葉は、周囲の人に、不快、怒り、不安、驚きなどの感情をもたらす。相手も人間だから負の感情をもった言葉を返してしまいがち。

逆に、言われてうれしい言葉がある。「ありがとう」「ごめんね」「大丈夫?」「すごいね」「頑張ったね」など。そのような言葉は、自分自身や周囲の人にとって、明るく前向きになれる言葉。『行く言葉が美しければ、来る言葉も美しい』という韓国のことわざがある。生活の中で、お互いに美しい言葉で会話ができれば、SNSに書き込む言葉も美しい言葉を使えば、人生は楽しくなるのではないだろうか。

お互いを尊重し合うことをいつも考えて、言葉を大切に生きていこう。2024年の校長の最後のメッセージです。

県高文祭

今年度は、11月8日(金)ベネックス長崎ブリックホールにて、第20回長崎県高等学校総合文化祭(しおかぜ祭)総合開会式が大会テーマ『足跡』のもと開催されました。今回のテーマには、これまで歩んできた過去を確かな『足跡』として残し、これからのさまざまな経験を経て形作られる未来を進む一步を新しい『足跡』として残していきたいというメッセージが込められています。第1部では加盟校紹介、専門部紹介、第2部では純心女子高校合唱部のステキな一ハーモニー、瓊浦高校の壮大な和太鼓、長崎女子高校の長崎伝統芸能の龍踊の発表があり、初めて観る龍踊には迫力があってとても感動しました。第3部では生徒会アピール、高文連旗引き継ぎ等があり、本校茶道部もお茶のお点前披露に参加しました。

来年度は、県北地区での開催となります。これから私たちの手で、皆さんに感動していただけるような大会を目指し、準備をしていきたいと思います。(生徒会)



ライブラリーフェスティバル県大会・全国高校生図書館サミット

12月18日(水)にライブラリーフェスティバル県大会、19日(木)に全国大会にあたる図書館サミットが佐世保市体育文化館で開催されました。生徒実行委員として7月から準備してきた2年石田さん、川添さん、山口さん、1年森山さんのほか、1・2年の図書委員の皆さんには設営・撤収まで手伝ってもらいました。広報紙コンクール、POPコンクールは普段見ることのできない他校の図書館活動を知るよい機会になったようです。ビブリオバトルには川添さんがバトラーとして参加し、広報紙コンクールでは2年生成成の7月号が県で優秀賞に輝きました。

全国大会はオンライン参加のほか北海道からの現地参加もあり、生徒交流会では班で本の話に花を咲かせていました。また、「POP王」ことブックジャーナリストの内田剛氏の講演や、ビブリオバトル全国大会での高レベルの戦いなどがあり、今回の経験を生かして、図書委員の今後の図書館活動が活発化し、佐西生の読書意欲が高まることを期待します。(図書担当)



選挙講話

11月20日(水)のLHRの時間に、3学年を対象に選挙講話が行われました。この講話は18歳選挙権がスタートしてから毎年実施されているもので、今回も講師に佐世保市選挙管理委員会事務局の方々を迎え、選挙の役割やしくみ、投票の手順や選挙のマナー等について講話をいただきました。10月の衆議院解散総選挙直後だったこともあり生徒たちの関心も高く、リアルな質問が多数飛び出しました。大変有意義な機会になったようです。(地歴公民科)



主な試合大会等の結果

<女子バスケットボール部>

○佐世保地区高等学校新人体育大会バスケットボール競技 第3位

<ソフトボール部>

○第19回全九州高等学校男子ソフトボール秋季大会 第3位

<美術部>

○薬物乱用防止推進ポスターコンクール

高校の部 優秀賞 2年 久田桃香 宮原大和

<写真部>

○第8回全九州高等学校総合文化祭【写真部門】

奨励賞 2年 森宗未来（上位10点/80 作品中） 文化連盟賞 2年 田島瑞留、1年 森山和葉

<放送部>

○第8回全九州高等学校総合文化祭【放送部門】九州高校放送コンテスト

アナウンス部門 優良賞 2年 下柳月愛

テレビ部門 優良賞 「超えてゆけ」 2年 福永瑳弥仁

ラジオ部門 奨励賞 「日常にラジオを」 1年 大城詩歩

<その他>

○税に関する高校生の作文

佐世保税務署長賞 「私たちにできることを」 2年 前田歩実

長崎県租税教育推進協議会代表幹事賞 「形を変える税金」 2年 平山晴香

九州北部税理士会佐世保支部長賞 「税と命」 2年 山崎暁月

公益社団法人佐世保法人会会長賞 「税金は人生のスパイスに変身する!？」 2年 新谷柚羽

佐世保商工会議所税務相談所所長賞 「税を味方につける」 2年 田尻光雪

佐世保青色申告会会長賞 「納税は無償の愛」 2年 桐原一華

○全国高校生ホームプロジェクトコンクール

努力賞 2年 塚本初音



いのちの講話

11月14日（木）、『いのちの講話』が行われました。長崎短期大学 教授 中野明人様 をお招きし、1・2年生を対象にお話をいただきました。自分や周りの人の命の重さや尊さについて改めて考え、もし不安や悩みを抱えた時には一人で抱え込むことなく、自分が置かれた状況を判断して、相談したり助けを求めたりすることの重要性を実感することができました。また、思春期特有の不安定な心身の状態を知ることで、自らの状況と照らし合わせて自己理解につなげることができました。（保健相談部）

【生徒の感想文より】

僕は自己肯定感が低く、何でも自分で抱え込んで、できない自分に嫌悪感を抱いたりしていました。今回の講話でこのような感情は思春期なら起こりうるものだということを知って少し安心しました。お話の中で一番大切だと感じたのは、「他の人に相談する」ということです。これから自分一人で抱え込みそうになったら、友人・家族・先生など信頼のおける人に話してみようと思います。（保険相談部）

《12・1月の行事予定》

12月25日	（水）	冬季講座（全学年） ～27日（金）
28日	（土）	共通テストプレテスト（3年） ～29日（日）
1月4日	（土）	共通テストプレテスト（3年） ～5日（日）
6日	（月）	冬季講座（3年） ～7日（火）
8日	（水）	授業再開日 ／ 冬季実力テスト（1・2年） 2年生は ～9日（木）
18日	（土）	大学入学共通テスト1日目（3年）／ 対外記述実力テスト（1・2年） 2年生は～19日（日）
19日	（日）	大学入学共通テスト2日目（3年）
25日	（土）	三者面談（3年）～27日（月）
26日	（日）	第3回英検（1次）
27日	（月）	後期期末考査時間割発表（部活動中止～2/5）
28日	（火）	高校入試特別選抜検査（生徒自宅学習）

